

道草と種蒔き —教えることは学ぶこと

国際コミュニケーション学部
川上 ゆか

いきなりですが、みなさんに質問です。

- 質問1. これまでいくつ外国語を学びましたか。
質問2. どうしてそ（れら）の外国語を学びましたか。
質問3. 「外国語としての日本語」ということは知っていますか。

上記3つの質問に私も回答してみます。

質問1の回答は5です。中・高・大の授業で英語、大学の第一外国語としてロシア語、第三外国語として韓国語を履修しました。また、台湾で中国語、フランスでフランス語を学びました。

質問2への回答は、英語とロシア語については卒業に必要なだったので履修しました。韓国語は日本語と文法構造が似ているというところに興味を持って履修しました。中国語とフランス語は現地での生活のために学びました。各言語の習得レベル（入門～中級）に差はありますが、いずれも中途半端で、学ぶ姿勢が足りなかったと反省しています。

質問3についてですが、私は外国語、または第二言語としての日本語を教える仕事をしています。みなさんが愛知大学で、または留学して外国語を学ぶように、世界や日本には日本語を学ぶ人がいます。私はこれまで、台湾、フランス、日本のさまざまな機関で日本語を教えてきました。中国語もフランス語もあいさつ程度しかできない状態で渡航し、現地で日本語を教える人をしていました。

ここでみなさんは不思議に思われるかもしれませんが。

その国のことばができなくても日本語が教えられるのかと。

当時の私は、大学・大学院の授業で課される模擬授業や教育実習において、直接法でしか日本語を教えたことがありませんでした。外国語の授業で教師が写真や実物を見せて、「이것은 사과입니다」「这是一个苹果」「นี่คือแอปเปิ้ล」「Dies ist ein Apfel」「Ceci est une pomme」と言うのを聞いて、「りんご」がその言語でどのように発音するのかを理解したという経験はないでしょうか。媒介語（学習者の母語など）を使わないで外国語を教える方法を直接法と言います。

私はなんとかの一つ覚えのように、この教え方で授業をしました。というのも、当時、台湾でもフランスでもネイティブ講師に求められていたのが日本語の運用面の教育、つまり会話や聴解練習の授業を担当することだったからです。ただ、いつまでも日本語しか使わない「ネイティブ」でいることは許されませんでした。

台湾で日本語を教えているとき、ひょんなことから博士論文を書こうと思い立ち、フランスに留学しました。フランスに移動した半年後に経済的な問題に直面し、学業継続のためにある大学で日本語を教える職に就きました。そして、引き続き直接法で授業をしていました。しかし、あたりまえのことですが、授業内外の学生からの質問はフランス語、会議も仕事のメールも大学院のゼミも何もかもがフランス語でした。日々の買い物はできても、仕事や研究で使うフランス語の能力が不十分な私は、ことばと文化の壁に阻まれ、うまく対応できず自宅で一人体育座りをする日々でした。

ただ、落ち込んでいても日常は続くので、メールの書き方は受信したメールを見て書き方を学び、いろいろな人の会話を聞いてステキな

表現をメモしては機会があれば使い、学生への対応は日本語も混ぜつつ自分が今使えるフランス語を駆使して伝えました。試行錯誤していくうちに、学生がどのような点に疑問を持ち、どのように説明すれば理解してもらえるかの記録が増えました。また、議論や批評の好きな学生をなんとかやり込めつつ、やる気を削がないような仕掛けが必要であることも学びました。

学業継続のために始めた仕事でしたが、おもしろくなり、夢中で向き合いました。そして、大学以外にも高等教育機関や市民講座などで多様な背景・学習目的の学習者に日本語を教える機会にも恵まれました。さまざまな人に日本語を教えることを通して、フランスの文化や社会構造について肌で学ぶことができました。学んだことの詳細は機会があれば、授業や廊下などでお話しできればと思います。

仕事に没頭した私は、本来の目的である研究を疎かにし、その達成までに長い年月を費やすというしくじりをしました。今後留学を予定されている方は、優先順位をつけ、計画的に物事を進めることをおすすめします。もちろん、道草を食うことで違う道に出て、新たな目的が見つかることもあります。私は道草を食うだけでなく、かなり遠回りもしましたが、さまざまな経験ができたので、今は後悔していません。

これまで3つの国のさまざまな機関で日本語を教える仕事をしてきましたが、いつも小さな使命（種）を心に秘めつつ従事しています。それは、日本語を教えることを通して日本を好きになってくれる人や将来日本と／で仕事をしたいと思ってくれる人を増やすことです。一人の人間ができることは小さいですが、台湾やフランス、日本で蒔いた種が成長していたという報告を受けるときに喜びを感じます。

みなさんはこれからどんな種を蒔いていきますか。



道草のひとつ



種蒔きの途中